

# 日韓トンネル通信

編集/発行  
特定非営利活動法人  
日韓トンネル研究会

本部事務局：東京都港区麻布台1-1-20  
〒106-0041 麻布台ユニハウス513  
TEL 03-3589-4188 FAX 03-5570-1634  
E-mail office@jk-tunnel.or.jp

九州支部：福岡市中央区赤坂1-1-22  
〒810-0042 たつみ赤坂ビル7階  
TEL 092-771-5872 FAX 092-771-5877

## (報告)九州支部の第5回通常総会が行なわれました。

九州支部の第5回通常総会が、8月6日(水)、福岡ガーデンパレスホテルで開催された。冒頭の来賓挨拶で野澤太三会長は、今年に入り九州支部の吉田信夫支部長、山崎達雄副支部長、東京本部の大塚茂副会長が逝去したことに触れ、「永年日韓トンネル実現に尽力された3氏の志をついで、今年もプロジェクト実現に向けて研究と議論を深めていきたい」と追悼の言葉を述べた。



九州支部の第5回通常総会

議事では国分節雄理事が議長に選出され、まず事務局から平成19年度の事業報告として、①シンポジウム「日韓海底トンネルと釜山の選択」に参加、②釜山～巨済島連結道路の建設工事現場を視察、③展示会「DEMEX2007」に出展、④壱岐市・対馬市の各種団体を表敬訪問、⑤日韓海底トンネル専門学会セミナーに参加、⑥展示会「CIVIL EXPO 2007」に出展、⑦ルート検討委員会、⑧ボスポラス海峡海底

トンネル工事現場の視察について報告があった。次に平成19年度の事業会計収支決算の報告があり承認された。平成20年度事業計画は、①各種国際シンポジウムや展示会への参加、②ルート案の検討と関連データ収集、③韓国側団体との共同研究、④当会ホームページの充実、⑤刊行紙の発行を審議し承認された。次に平成20年度事業会計収支予算書案を審議し承認された。九州支部の役員の検討では、新任として、大歯孝一郎(株式会社石和総建副社長)、井出然(土地家屋調査士)、古賀和裕(唐津上場商工会長)、豊坂敏文(壱岐市議会議員)、多田直樹(対馬新聞社代表取締役)の5氏がいずれも理事としての就任が承認された。

議事終了後、視察報告として野澤太三会長が「トルコ・ボスポラス海峡トンネル工事現場の視察」と題し約30分間講演した。

## (報告)福岡市、唐津市、壱岐市、対馬市の各市長を表敬訪問しました。

去る8月5日(火)から8日(金)にかけて野澤太三会長ら一行が、福岡市、唐津市、壱岐市、対馬市の各市長を表敬訪問し、日韓トンネル計画の説明と今後の協力をお願いした。これは日韓トンネルの実現が国政のトップの動きと共に現地を預かる各市長の協力が不可欠なためである。訪問日や訪問者は以下の通り。



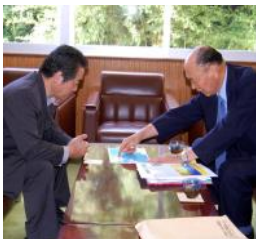
福岡市長表敬訪問

◇8月5日(火) 吉田宏  
福岡市長を表敬訪問(野澤太三会長、濱建介副会長、国分節雄九州支部理事、他2名)



唐津市長表敬訪問

◇8月7日(木) 坂井俊之  
唐津市長を表敬訪問(野澤太三会長、濱建介副会長、佐々木和資九州支部副支部長、他2名)



壱岐市長表敬訪問

◇8月8日(金) 白川博一  
壱岐市長を表敬訪問(野澤太三会長、佐々木和資副支部長、豊坂敏文九州支部理事、他3名)



対馬市長表敬訪問

◇8月8日(金) 財部能成  
対馬市長を表敬訪問(野澤太三会長、佐々木和資副支部長、他2名)

その他に壱岐市では壱岐市商工会や壱岐市観光協会、対馬市では対馬新聞社などを訪問した。

### (報 告)唐津市で懇談会を開きました。

去る8月7日(木)唐津シーサイドホテルで昼食を交えた懇談会が開かれ、唐津市の地場産業の経営者ら約20名が参加した。当会からは野澤太三会長、濱建介副会長、佐々木和資副支部長、藤橋健次常任理事が出席し、唐津の役割りなどについて話し、日韓トンネルへの協力を求めた。



唐津市で開かれた懇談会

### (報 告)新博多駅ビルの工事現場を視察しました。

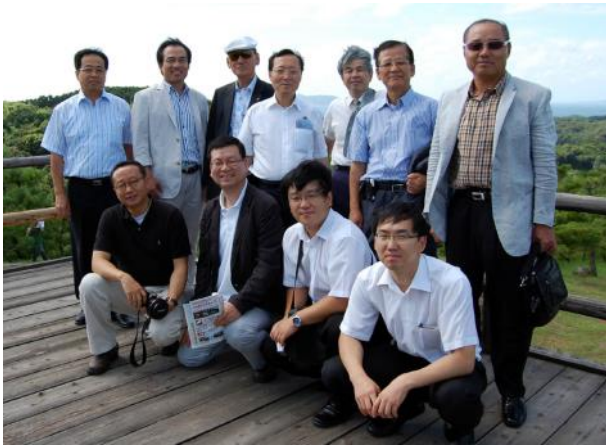
去る8月6日(水)、野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋健次常任理事ら5名は、JR九州(九州旅客鉄道株式会社)が進めている博多駅工事を視察した。九州新幹線ホーム1面2線増設工事も並行しており、博多駅の日常機能を保ちながら駅ビルを作り変え、あらたなホームも設置するため、工事の手順にさまざまな工夫が施されていた。



新博多駅ビルの工事現場視察

### (報 告)釜山市からの視察団が唐津、壱岐、対馬を現地視察しました。

去る8月25日(月)から26日(火)にかけて、釜山市の外郭団体である財団法人釜山発展研究院の一行ら11名が日韓トンネルの経由地となる唐津、壱岐、対馬を視察した。参加者は釜山発展研究院からはイ・キョンシク(李啓植)院長をはじめとする5名、社団法人韓日トンネル研究会からはホ・ムンド(許文道)顧問をはじめとする3名、デウ



唐津市名護屋の調査斜坑現場視察

(大宇)建設からトンネル技術者2名、当会からは藤橋健次常任理事ら2名の計12名である。

視察第一日目の8月25日、一行は福岡空港で落ち合った後、専用バスで唐津市に向かい、名護屋にある日韓トンネルの調査斜坑試掘現場を視察した。現場概要のヒアリングをし、坑内車で切羽(掘削面)付近まで入り、内部を見学した。その後、唐津東港の埠頭からフェリーで壱岐島の印通寺に渡り第一日目を終えた。

第二日目は壱岐島の最高峰、岳の辻(213m)に上り壱岐島内を俯瞰した後、島の南端に近い初瀬の海岸端の崖に露出したマグマの貫入跡を視察した。その後、水田地帯にある原の辻遺跡、島の北端近くに露出する「勝本層群」、「湯の本温泉の源泉」を視察し、昼前の船便で壱岐の郷ノ浦から対馬の巖原に渡った。

対馬では日韓トンネルの想定ルート沿いに対馬東海岸線沿いを車で北上し、万関橋、小船越などを視察し、西海岸では木坂展望台や対馬海峡遭難者追悼之碑付近から韓国を遠望し、女連(うなつら)の朝鮮国王妃の墓などの史跡も巡った。



対馬の木坂展望台から韓国の山並みを眺望する

### (報告)海底トンネル研究国際ワークショップを開きました。

去る8月27日(水)、アルカディア市ヶ谷私学会館で「海底トンネル研究国際ワークショップ」が開催された。主催は釜山発展研究院、韓日トンネル研究会、当会の3団体共催で、出席者は韓国側から釜山発展研究院5名、韓日トンネル研究会3名、デウ(大宇)建設2名の計10名で、日本側は当会の野澤会長をはじめとする10名である。

午前10時に始まり、まず両国参加者の紹介があり、続いて主催3団体の代表が挨拶をした。ワークショップでは、まず釜山発展研究院のチェ・チグ(崔治国)研究チーム長が「韓日海底トンネル研究の方向」という題で発表し、日韓トンネルは大都市釜山と福岡を直結することが前提なので、対馬から韓国へのルートはこれまで検討してきたルートではなく、カドク(加徳)島への上陸が好ましいと指摘した。続いて日本側の発表で野澤太三会長は、トンネルの技術的可能性と共にトンネルが何をどう運ぶかという使い方からトンネルのルートや駅部の選定が重要だと述べた。

昼食後の自由討論では日韓双方から工法や





ワークショップ

ルート、歴史文化面などから意見交換をし、今後の検討課題が多く抽出された。また交流によりお互いの信頼関係を深め、両国民の間に心のトンネルを築くことの大切さが指摘され双方の共感を得た。

### **(報 告)青函トンネルを視察しました。**

去る8月28日(木)、釜山発展研究院の5名、韓日トンネル研究会の2名、当会の野澤太三会長、濱建介副会長、藤橋建次常任理事ら5名、計12名が青函トンネルの本州側斜坑付近を視察した。経路は、竜飛海底駅→青函記念館→巻上機→排煙機→ポンプ場→竜飛海底駅である。視察団は青函トンネル建設に直接携わった濱建介副会長から土被りの決定などトンネル設計などについて学んだ。



青函トンネルの視察

### **(報 告)大韓建設協会の一行が当会を訪問しました。**

去る9月4日(木)大韓建設協会のユ・スンファ(柳承和)常勤副会長とゴン・ヨグク

顧問、シン・ジョンズ中小企業グローバル支援センターセンター長が当会を訪れ、野澤太三会長と濱建介副会長と会談した。ユ常勤副会長は韓国の過去3代の大統領が日韓トンネル建設を提案したことに触れ、日本政府が日韓トンネルの妥当性調査など積極的な行動に出る必要性を訴えた。これに対し野澤会長は両国政府が具体的な動きをするために両国の国民が日韓トンネル建設を前向きに考える環境づくりが必要と答えた。またルートの選定方法などについて意見交換した。

### **(報 告)三橋郁雄氏による勉強会を開催しました。**

去る9月12日(金)、アルカディア市ヶ谷私学会館で財団法人環日本海経済研究所(ERINA)の三橋郁雄特別研究員を講師に招き「東北アジア交通ネットワークと日韓海底トンネル」と題する勉強会が行なわれた。北東アジアの発展に日韓トンネルが果たす役割について話があり、日韓トンネルの想定物動量の推定と通行料金の仮定により求めたプロジェクトの毎年償還額や収入必要額の分析結果などが示された。

### **(報 告)日韓技術士会議で日韓トンネル計画がとりあげられました。**

去る9月29日(月)、日本技術士会主催の第38回日韓技術士会議が新潟市で開催され、全体会議で韓国技術士会のパク・キョンブ(朴慶夫)副会長が「北東アジアの発展のための技術士の役割」というテーマで基調演説し、そのなかで日韓トンネルの必要性や現状について語った。なおパク・キョンブ氏は当会の顧問でもある。